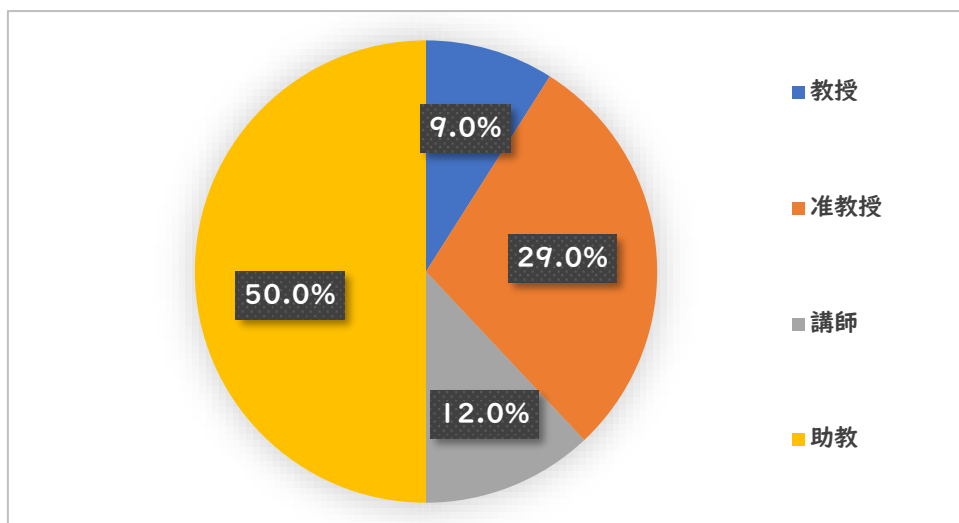
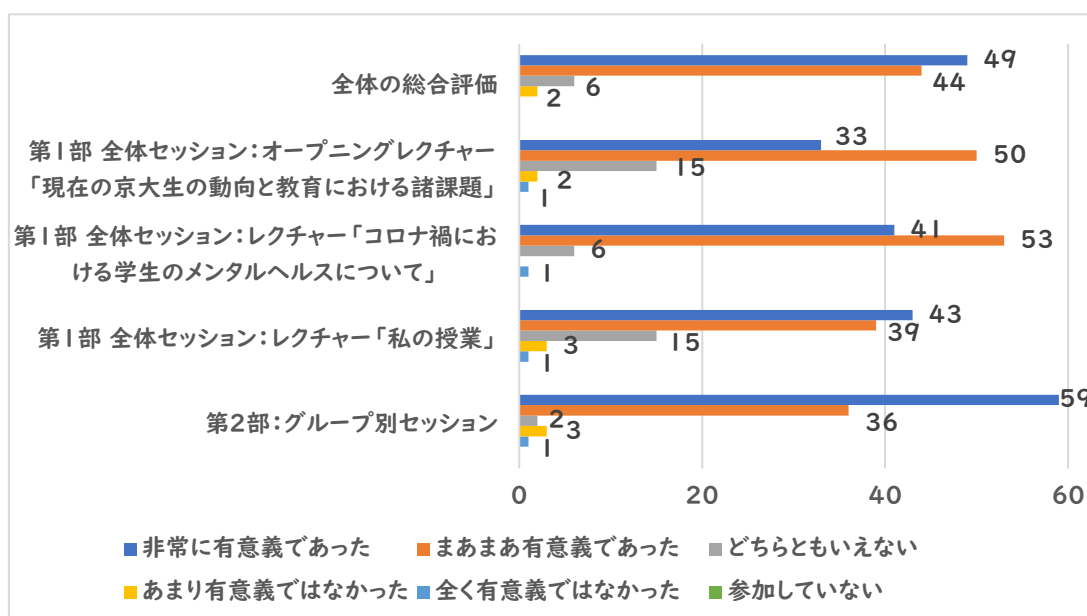


- ◇ 開催日時:2021年9月22日(水)13:00~16:00
  - ◇ 開催形式:オンライン(Zoom)
  - ◇ 参加者数:180名(テーマ①:15名,テーマ②:63名,テーマ③:31名,テーマ④:32名,テーマ⑤:33名,テーマ⑥:10名,第一部のみ参加:4名) ※当日配布資料の参加者名簿に掲載された人数.Zoom上では一番多いときで,170名程。
- ※職階(当てはまるものを選んでください)(事後アンケートから。N=100)

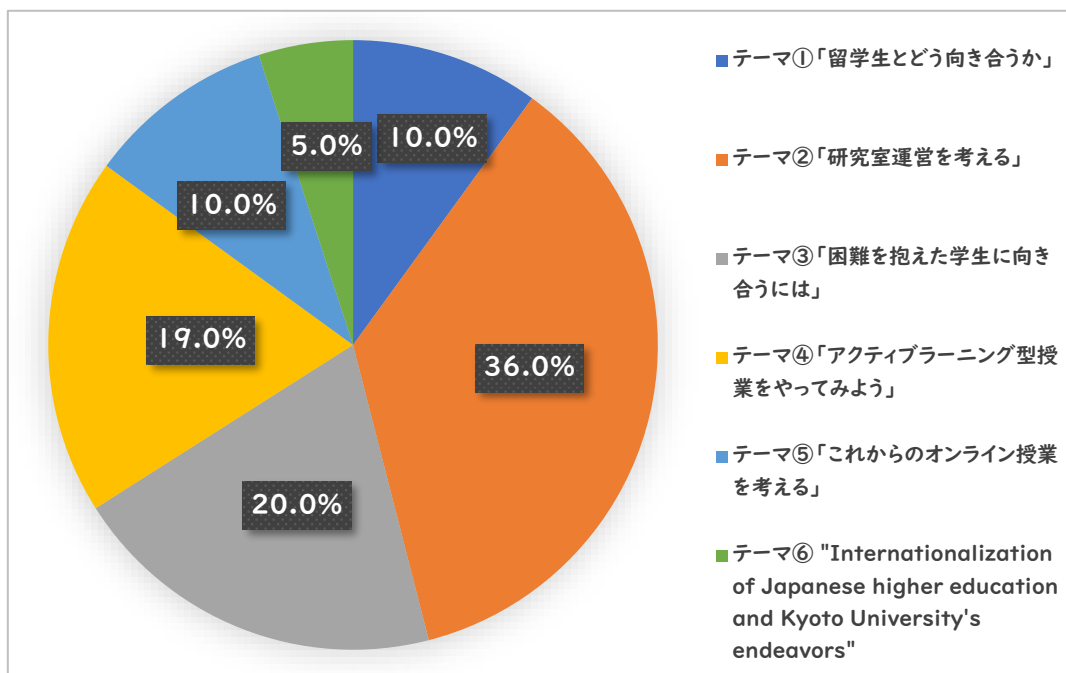


- ◇ 事後アンケート結果(回答者数:101名)

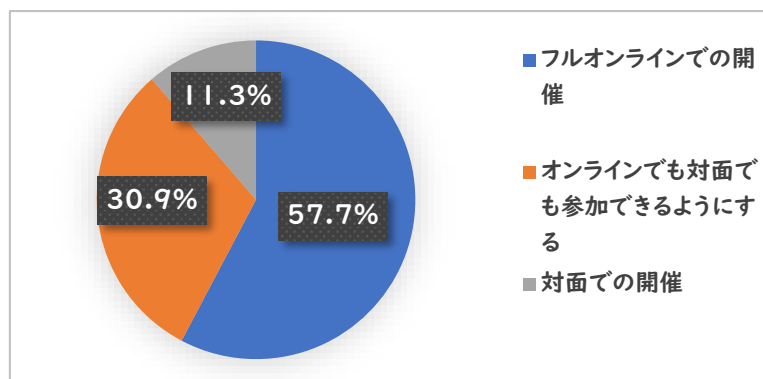
Q1:以下のa~eのそれぞれについて,当てはまるところを選んでください(図中数値はN)。



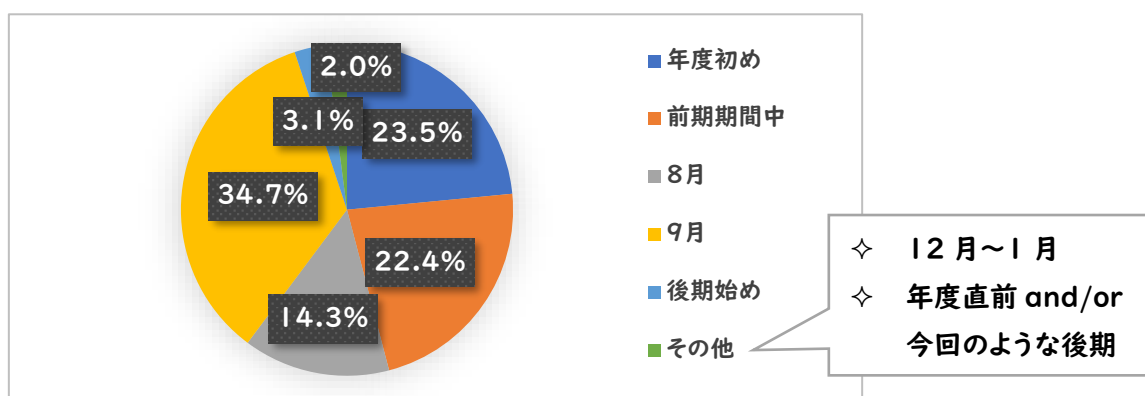
第2部の参加テーマ(当てはまるものを選んでください)(N=100)



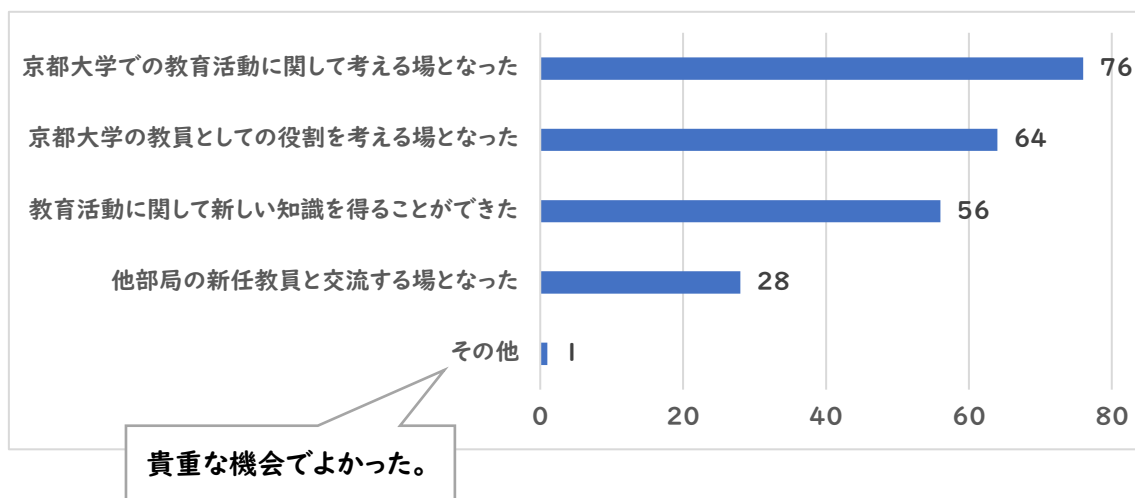
Q2:本セミナーの希望する開催形態について、当てはまるものを選んでください(N=97)。



Q3:本セミナーの希望する開催時期について、当てはまるものを選んでください(N=98)。



Q4:本セミナーに参加した成果について、当てはまるものを選んでください(複数回答可)(図中数値はN)。



Q5:プログラム全体あるいはグループ別セッションで取り上げてほしいテーマや内容があればお書きください。

→教育に関連するものでは、ハラスメント対応についてのテーマが挙がっていたが、多かったのは、教育以外のテーマ(例えば、事務処理関係や大学運営関係、働き方など)であった。

コメント(回答数 20 件)

グループ別セッションとして、ハラスメント対応ということ扱っていただきたい。近いものとして困難を抱える学生というセッションを今回は選んだが、ただふんわりとした悩みということよりも、ハラスメントや事件性を帯びる事案(家庭内暴力など)への対応の方が教員としては経験がなく、(大事にしたいと本人が言っても公にすべき場合等もあり)対応が難しいので、どういところにつながればよいのか、どう話をすればよいのか、教えて頂きたかった。

本学のFD活動について網羅的な紹介があれば良かった。

1) 現在の京大生が大学側に求めている教育、と 2) その求めに答えるための京大側で実施しているアクションなどのテーマ

今回は教員と学生間での関係がメインであったが、教員間でのトラブル等の解決について何かあれば良いかと思えます。

教育以外のテーマ。研究方法、考え方、進め方など。

教員に対する学生側からの意見(何を求めるかなど)を聞いてみたいと思いました。

京大の教員ならではの特色。

聞いてみたいテーマがあったので良かったです。

オンライン授業

検収等の事務処理関連について(これは完全に私個人の要望ですが、博士卒で上がってきたのもあり、かなり苦勞しています...企業からいらした先生も悩むのではないのでしょうか。具体的な事例ベースでの内容があるとわかりやすい気がします。)
色々なオンライン授業、双方向で行う工夫について学びました。現状にぴったりの良いテーマでした
教学マネジメント
教員の働き方改革
学科横断や、学外の多くのステークホルダーとの協働
新任教育セミナーを過去に受けたことのある先生の講演
学生へのハラスメント防止対応(意図せず行っていたりすると怖いことから)
グループ別セッションではテーマ④を選びましたが、てっきり、Zoom 授業の中でのアクティブラーニングの話だと勘違いしていました。来年もこの状況が続くようなら、そういった内容も話していただければいいかと思いました。
研究-教育-運営のバランスについて、他のラボの上手く行くノウハウがあれば知りたい。
Student mental health during the pandemic (information provided in English)
Social activities in/around the university

**Q6:本セミナーに参加してよかった点や改善した方がよいと思った点についてお書きください。**

→よかった点として、第一部のレクチャーでの具体的なデータや経験の共有、第二部についてはそれぞれ役立つ情報が得られたというコメントが多く挙がっていた。改善した方がよい点については、開催時期と全体の時間について多く見られた。

<b>コメント(回答数 44 件)</b>
良かった点として、オンライン授業のコツを実際に学べた(久家先生の授業)。また、語学の授業で脱落する学生が多いこと等、全学としての傾向を知ることができた(全体セッション冒頭)。改善した方がよい点としては、グループ別セッション(困難を抱える学生)について、大変参考になる内容ではあったが、教員がどう学生に寄り添うか、だけではなく、寄り添いきれないときにどうすればよいかを知りたかった。カウンセラーと教員では立場が異なる(教員はカウンセリングの専門家ではないのでどこまで踏み込んでいいのか、実際には悩んでしまう+他の学生との関係やプライベートについての関わり等、関係性がより複雑である)ので、教員でカバーしきれないときにどこにどうつなげばよいか、教えて頂きたかった。
他の先生の講義を聴く機会はそれほど多くないので、大変ためになった。
第一部第二部を合わせて、30分ほど短縮していただけるとよりありがたいと感じました。
ともすれば、留学生個人の問題として距離をおいたり、具体的な対応方法がわからなくておろおろしたりしてしまいがちな本問題について、よりよい対応方法の大枠が、具体的事例とともによく理解できました。
発表がつつたなくお世話おかけいたしました。ありがとうございました。

<p>複数のグループ別セッションに興味がありました。ひとつだけではなく複数に(たとえば2つに)参加できるようにしてもいいかと思いました。</p>
<p>「価値の部分共有をする」と「10年後の目標を尋ねる」というがよかったです。</p>
<p>研究室運営に対して分かっているようで分かっていない点や、様々な気づきがあって良かったと思います。</p>
<p>教員としての基本的な姿勢がわかった。教育以外の仕事のことも知りたかった。</p>
<p>学生とのコミュニケーションを取る方法について参考になった。</p>
<p>すべてのセッションについて内容を興味深く拝見しました。全体的に時間設定が長く、多少冗長に感じました。</p>
<p>文系・理系の状況の違いを踏まえてそれぞれに対応するようセミナーを展開すればいっそう良かったと思います。</p>
<p>心がけたいと思っても、忙殺されてしまっていることを改めて、思い起こさせて頂いた点は非常にありがたいと思いました。</p>
<p>具体的な事例に則したお話が多く、わかりやすかったです。第2部で参加してみたいテーマが重なっていたのが残念でした。</p>
<p>大学教育について考える良い機会になりました。ありがとうございました。4月に初めて大学に移って来て全く状況がわからないまま講義が始まってしまったので、こういうセミナーが年度当初にしていただけると大変助かったと思います。</p>
<p>中身の濃いセミナーで、時間が足りないくらいでした。</p>
<p>私は今年度博士課程を修了し、助教に着任した身です。学生から見た研究室、というのはすでに過去7年間にわたり3つの研究室を経験してまいりました。一方で、教員の側では研究室運営に対してどのように臨むべきなのか、という点については、ことコロナ禍にあってはなかなか本音でPIの方などからお話を伺う機会がなく、情報が仕入れられればなあと常々思っておりました。今回、グループ別セッションで、実際に研究室運営に携わってこられた先任の先生の本音や、運営に係る原理などを伺うことができ、「知りたいけどなかなか知ることのできない情報」にアクセスする機会となったのは、大変よかったですと思います。</p>
<p>どの方の話も聞きやすく、平易な言葉となりますが、参加してよかったです。セミナーの長さも長すぎず、助かります。内容については、サポート体制等の情報も含まれており、もう少し年度の早い段階で聞ければよかったかも、というような体感で、日程については少し要検討かと思います(あと私事ですが、夏季休暇取得チャンスが減ってしまい、少しだけ困りました。参加しやすい日程ということもありそうですが)。</p>
<p>教員の役割、教育活動について理解しました。</p>
<p>少し長かった。</p>
<p>テーマ4を受講したが、アクティブラーニングの具体的な方法についてレクチャーがあるかと期待していたが、実際に自分がアクティブラーニングを体験するという内容だった。タイトルから想定される内容と異なっていたので、タイトルを変更されると良いかと思います。誤解を招きそうです。</p>

欠席者が多いのでグループ内の参加者がだれかがわかりづらかった
他部局の先生と接する機会になり、色々な考え方があるのだと知る貴重な機会となった。
ロールプレイは良かったです。
グループワークで他の教員と話をできたのがよかった。
懐疑的でしたが、参加してみて良い経験になりました。聴く、という事を今後意識していきたいと思います。
学生相談のロールプレイという貴重な経験を得ることができた。
他部局の方と議論できる場は少ないため、貴重な体験ができました。
学生総合支援センターの杉原先生のご報告は、「そうだろうなあ」と思っていたものの、アンケートの結果をシェアしていただいたのを見ると改めて衝撃でした。現在の学生の状況を踏まえた授業デザインについて考えさせられました。 久家先生のご報告も大変面白かったです(ミニ講義自体も含め)。「いろんな授業があるのが良い」「色々試してみて築く」が、特に勇気づけられました。 第2部については、私が想定していた内容とは違った(オンライン授業の Tips 紹介や、うまくツールを活用されている先生の講義紹介かと思っておりました)のですが、PandA などのプラットフォームをそもそもあまり存じ上げなかった(学生時代に利用したことがなかった)ので、まずは活用策を考える機会になりました。また、私が想定していた内容については「CONNECT」に情報リソースが既に溜まっているとのことでしたので、そちらを参照させていただきます。
教育というものについて改めて考える機械を持た
学生の立場で教育学習に参加できたこと
第二部で時間が足りなかったのでテーマを絞った方が良いかもしれません
とりわけ、公家先生のセッションが素晴らしかったです!
京大の教育現場を俯瞰する形の情報が得られてよかった。(自分の担当部分しかわからないので)複数のグループセッションに興味があったので、配布資料はあるものの、もう少し詳細な情報も別途得られる仕組みがあるとよいと思った
実習はオンラインながら、非常によい経験となりました。時間帯としてはもう少し遅い開始でもよかったかもしれません。
研修講師に個別に質問に答えてもらえたところがよかった
コロナ禍における学生さん方の現況について多少なりとも知ることができてよかったと思っております。
まず、本セミナーの運営に当たられた先生方や登壇者の皆様に感謝申し上げます。以下 2 点、気づいた点をコメントさせていただきます。 メンタルヘルスについて:メンタルヘルスの問題の兆候のある学生がいた場合、具体的に何をすればいいのか、その学生にどのような案内をすればよいのか、といった情報があるとありがたかったです。 「アクティブラーニング型授業をやってみよう」:今回の「アクティブラーニング型授業」の中身は、

<p>ブレイクアウトでゲームを行うことと、学生に数分間のディスカッションを行うことだけで、個人的には既に自分の授業で実践していることでしたので、大変恐縮ながら特に新しい学びは得られませんでした。タイトルを見て、最新の教育工学的なお話を聞けたり、様々な実践について知識を得られることを期待しておりましたが、それよりは薬学部における意欲的な取り組みの紹介という興味が強かったように思います。</p>
<p>短い時間でしたが、他部局の新任の方々と交流できてよかったです。 学生の孤立についてのお話がありましたが、教員もこのコロナ状況下では孤立したり相談ができなかったりする状況があるのではないかと感じました。コロナ後にあらためて研修+交流などの会があるといいなと感じました。</p>
<p>第 2 部 が詰め込み気味だったので、あと 1 時間程度の時間があっても良かったと思う</p>
<p>フランクな雰囲気のおかげで肩の力を抜きつつ話に引き込まれた。</p>
<p>I guess Part 1 was very helpful and it is a little bit sad that I couldn't understand it. It would be very beneficial if at least the slides would be in English so that also international staff can follow the content.</p>
<p>I was expecting more information to be provided about "Internationalization of Japanese higher education and Kyoto University's endeavors"</p>
<p>Good to know that there's available services (e.g., counselling)</p>